

第1回守谷駅東側周辺の子育て・教育環境等

を検討するための有識者会議 議事録

日 時	令和 7 年 2 月 6 日(木)10:00~12:05
場 所	守谷市役所 3階 庁議室
委員参加者	樋口委員、藤川委員、村上(暁)委員、宇佐見委員、村上(ま)委員 (計 5 名)
事 務 局	宮坂副市長 市長公室 濱田公室長、石神次長兼財政課長、染谷企画課長 こども未来部 石塚部長、森山次長兼のびのび子育て課長、笠見子育て支援センター長、前川すくすく保育課長、 都市整備部 浅野部長、笠川次長兼都市計画課長 教育委員会 小林部長、福島次長兼生涯学習課長、前川学校教育課長、坂本同課長補佐 (計 14 名)
配布資料	守谷駅東側周辺の子育て・教育環境庁内検討会報告書

1 開会

2 副市長挨拶

3 委員紹介

4 協議

(1)議長選出

自薦・他薦ともになかったため、事務局案として筑波大学人間系教授の樋口委員を提案し、全会一致で同委員が議長に選出されました。

(2)議長代理者の指名

筑波大学システム情報系教授の村上(暁)委員を議長代理者として指名し、全会一致で決定しました。

5 説明

(1)守谷駅東側周辺の子育て・教育環境庁内検討会報告書について

『第1章 守谷市の現状と今後の見通し』

【事務局】

事務局より資料に基づき説明

【質疑・意見交換】

【藤川委員】

市全体の人口増は、今後は落ち着いてくると考えられるが、守谷駅周辺において、大規模マンション等の開発により想定外の人口増となる可能性について、どのように考えていますか。

【事務局】

守谷駅周辺には駐車場利用地が多く、市が駐車場の地権者に宅地化の意向を伺った結果では、現在のところ転換を図る考えは見出せなかったため、現時点では新たなマンション建設の可能性は低いと考えております。ただし、長期的な視点に立った場合には、可能性はあると考えています。

『第2章 学校教育編』

【事務局】

事務局より資料に基づき説明

【質疑・意見交換】

【宇佐見委員】

黒内小学校の特別支援学級が急激に増えている。今後の特別支援学級の推移を予測することは難しいように感じるが、どのように考えていますか。

【事務局】

保護者からの申請に基づいて就学前の児童の検査を行っておりますが、最終的な判断は保護者によるため、委員のお見込みのとおり、正確に見込むことは難しいのが実情です。現状としては、黒内小学校だけではなく、全体的に増加傾向となっております。

【藤川委員】

事務局の説明では、新設校は難しいように理解しました。本来であれば、黒内小学校の児童数がピークを迎える前に、新設校の必要性を議論するべきと考えるが、現時点で新設校を議論することになった経緯を伺いたい。

【事務局】

黒内小学校では、これまでに2回の増築を行った経緯があります。過去の児童数の推計では、増築で対応できるものとなっていました。推計よりも実際の児童数の増加が上回ったこと、また特別支援学級数の増加も大きかったことから過大規模校となり、課題解決を図るために今回の会議を発足するに至りました。

【樋口委員】

黒内小学校は、全児童が守谷中学校に進学すると理解しましたが、守谷中学校は現時点では適正規模となっているという理解でよろしいか。

【事務局】

お見込みのとおりです。

『第3章 子育て環境編』

【事務局】

事務局より資料に基づき説明

【質疑・意見交換】

【宇佐見委員】

市が考えている子育て施設の優先度については理解しました。しかしながら、子どもの居場所作りを考える際には、様々なニーズや特性を持つ子ども達がニーズに応じた居場所を持てることが重要だと思います。柏市がプロジェクトに中・高生を入れて、より踏み込んだ議論をしたように、子どもたちの意見を取り入れるための取組にも挑戦していただきたいと考えます。

【村上(ま)委員】

中高生の児童館の利用が少ないように感じていますが、実際の年齢別利用状況はどのようになっていますか。また、中高生の児童館の対するニーズや利用状況はどのようなものがありますか。

【事務局】

児童館の年齢別利用者数については、次回の会議においてお示しします。

中高生のニーズや利用状況としては、中学校では、卓球・バスケットボールなどを中心に部活動の補完場所としての利用や要望が多い状況です。高校生では、小中学校時代の友人との利用が主となっておりますが、利用頻度は多くはない状況となっております。

6 意見交換

各委員が、今後に向けての要望や本日の感想などを発言

【樋口委員】

他市の事例においても、人口推計は非常に難しいものとなっています。市全体ではなく、当該地域の人口を推計する必要があると思います。

また、周辺の私立小学校の動向や、小学校だけではなく小中連携の状況を踏まえた学区編成についても考える必要があると考えます。

【藤川委員】

今回の説明を聞いた限りでは、新設校は現実的ではないと感じました。既存の教育施設を生かして、当面の過大規模校の問題をどう乗り越えるかが重要だと思います。

また、児童クラブなどの問題については、市が明確な方針を示した上で議論していくべきものと考えます。

【村上(暁)委員】

人口推計は、私の専門の都市計画分野も関係しておりますので、自分事として考えました。今回の課題については、10年・20年先を見据えた対応が必要になると思います。

新設校が最適解ではないとしても、通学区の見直しだけでは不十分だと思います。

アメリカでは教育で人を誘導する考えが根付いています。日本では難しいかもしれませんが、守谷市は市域がコンパクトであるため、少し離れた小学校でもスクールバスなどを利用すれば通学は可能なので、学校ごとに特色ある取組を展開することで児童の誘導ができるのではないかと思います。ただし、そのために出すスクールバスがいくらくらいになるのかなど、財政コストを含めての議論が必要ではあります。

【宇佐見委員】

宅地開発を行う際に一番苦勞するのは学校の問題となることが多いですが、通学時の安全、良好な学習環境の確保を考えると現状の松並青葉の問題は解決しなければならない状況にあると思います。

また、子育て施設としてどのような施設を作るかは、先程も申し上げましたが保護者の意見も重要ではありますが、子ども達の主体性を信じて、子どもの意見を聞いて進めることも必要だと考えています。

【村上(ま)委員】

守谷市は、自然と都市のバランスが良く、ポテンシャルの高い市だと感じています。

感想としては、通学区域の変更が想像していたよりもハードルが高いものだと感じました。

過大規模校の解決には、私立小学校への流入を促すことを目的に助成などを検討しても良いのではないかと思います。また、子育て・教育環境を整備するうえでスポーツや語学など、何かに特化した守谷ならではの取組に結び付けられたら良いと考えています。

◎次回会議までに市に求める資料(データ)等

- ・児童館の年齢別利用者数
- ・児童館の中高生の要望状況(アンケート結果)
- ・スクールバスに要する経費
- ・(市全体ではなく)地区別の人口推計
- ・駅周辺地区の推計(現在の空き地の活用可能性も含めて)
- ・私立進学率
- ・市の現在の教育施策(小中一貫方針、学校ごとの特色ある教育等)
- ・児童クラブ等設置方針

7 連絡事項

事務局から次回の会議の開催予定を案内(近日中にメール等にて調整して決定)

8 閉会
